

A 基本データから読み取れること（項目 1～5）

子育て世代の方々の回答が多かったため、30代・40代が85%。
その内女性の回答者が約62%、鹿沼に定住して21年以上が約70%。
30代43%、40代41.5%、と全体の84.5%を占めた。

【性別】

- ・男女比4:6（女性62%、男性38%、その他0.3%、）
- ・「その他」の項目を設けたことで、1086人中3人の「その他」と回答された方の気持ちを尊重できたことに意味があったと思う。

今回のデータからは人口10万人中270名と読み取ることができる。

【年齢】30～40代が85%を占める中、中学生・大学生から10代7名の回答も得た。

【地区】鹿沼、菊沢、北犬飼、東部台の順に多く、この4地区で全体の約半数。

【職業】事務とパートを合わせて50%

【居住年数】11年以上が80%で、5年以下は5.5%と、居住年数が短い方はかなり少ない

【所属団体】幼保小関係者（市P連、市子連、鹿保連、鹿幼連の合計）が78%と、
当初の狙い通り子育て世代が約8割で、消防団が13%

B 個別項目について

1) 暮らしについて（項目6～7）

暮らしについては、約61.5%の人が「変わらない」と答え、「良くなった」が約20%。
「悪くなった」の回答は約2割あり、コロナ禍の2020年7月～9月の回答での影響が伺える。

2) 市政に対する重要度について（項目8～9）

・重要性の高い施策については

- 河川の整備、● 保健・医療体制の充実、● 子育て支援の充実（医療費助成）、
 - 子育て支援の充実（保育園費）、● 子育て支援の充実（給食費）、● 子育て支援の充実（出産助成）
- 以上6項目が重要性の高い施策と答えている。他はほとんどが普通との回答

・上記の「重要性の高い施策」のうち特に重点を置くべき5つにまとめた課題

- | | |
|----------------------|---|
| 1 番 河川の整備 | 5 番 $\left\{ \begin{array}{l} \text{保健・医療体制の充実} \\ \text{子育て支援の充実（医療費助成）} \\ \text{子育て支援の充実（保育園費）} \\ \text{子育て支援の充実（給食費）} \end{array} \right.$ |
| 2 番 子供の遊び場の整備 | |
| 3 番 学校教育の充実 | |
| 4 番 人口減少対策への対応（出産助成） | |

（子育て支援を一括りにすれば、大きく5つが重点と考えられる。）

3) 市の魅力について（項目10）

「いちご市」宣言・ベリーちゃんについては、少しずつ浸透してきたように思われる。

ネーミングライツについては、まだまだ認知度が低い。

シティープロモーションの認知度はあがってきている。

ネーミングライツは浸透していない。

いちごアリーナ等子育て世代が頻繁に通う施設の名前が「ネーミングライツ制度」によるものであると認知されていないのは周知不十分。そのため特に子供たちからは不評であり残念。

B 個別項目について

4) 公共交通について

30代・40代の方はリーバス・デマンドバスをほとんど利用していない。
その様な中でも、電車とのアクセスに不備を感じている人が半分はいる。

回答者の世代が普段の生活で乗用車を移動手段とし、意見が少なかったが、
JR日光線、東武日光線、高速道路、路線バスなどについては
他市、首都圏へのアクセスが良いとする評価があった。

リーバス、デマンドバスはほとんどの人が利用していない。
リーバスの利用目的のほとんどが「その他」であったが、
その内訳を把握することで分析できることがあるように思う。
電車の乗り換えはほぼスマホのアプリ等で確認している。

JR、東武ともに接続が悪いという人が良いという人の4倍程度。
路線、時刻表など毎年調整を試みているが、更なる改善が求められる。

リーバスの利用は高校生と高齢者が全体であり、中でも電車との接続が悪く、
特に高校生は朝夕の通学時の増便を要望しています。
デマンドバスは利用の仕方を理解していない。
リーバスとデマンドバスの違いを理解していない人が多い。

5-1) 本に親しむについて (項目 17～19)

回答者のうち、半分しか図書館を利用していない。
図書館で借りる場合は、5冊以上が多い。
図書館を利用しないのは、本を購入するかほかの方法で手に入れるから。

本を読んでいる人、親しんでいる人は定期的に存在するが、図書館利用と書店、
ネットでの本の購入とオンライン読書に分散される。

図書館の利活用は、市民の要望としてあるが、読書という観点とは別の角度で考察が必要

半数が図書館を利用しない。
図書館を利用する人は5冊以上借りる人が多い。
図書館を利用しない理由は、情報を得る手段が本以外（ネット等）である、
または、本を購入する人が多い。

回答者の半分以上が利用してない。働き世代の回答率だからと思う。
5冊以上が多いが、本を借りる本の内容は、どのように本を借りているかは不明

B 個別項目について

5-2) 書店の利用について (項目 20 ~ 22)

回答者のうちほとんどの人がツタヤを利用。半数が福田屋の書店を利用。
手にするのはほとんどが雑誌、次に専門書とマンガ。
「書店を利用する」人の半数が月に一冊は購入している。

雑誌、専門書の購入は書店やオンラインなどで利用している。

書店利用は、① ツタヤ ② 福田屋 ③ ワンダーグー
購入するのは、① 雑誌 ② 専門書 ③ 漫画で、月に 1 冊程度の人が半数。

6) 防災対策の推進について (項目 23 ~ 25)

情報はほとんどがスマホから得ている。次が TV による情報。
防災メールとヤフーで半分ずつ。(地域防災メールの普及をすべき)
食糧の蓄え・半数の人が蓄えていない。蓄えていても、1 日か 2 日分である。

河川の護岸強化、自宅の防災対策の支援、情報伝達の整備充実などの要望。

食糧の備えは、1 日～2 日が多かった。情報伝達の改善が必要。
台風 19 号時はケーブルテレビが見られず、防災メールも少なかった

防災情報はスマホで得ている。

①市の防災メール ②Yahoo 防災速報アプリ

半数の人が家庭での備蓄をしていない。している人も 1 日分が多い。

スマホが使えなくなったら困る人が多くなってしまうと考えられる。

粟野地区、永野地区で防災カメラ(河川の氾濫等)監視できるものがあつたら安心する。

若い世代にはスマートフォンを通じた情報発信が有効。

スマホ、テレビ、ケーブルテレビ、ラジオの順位で情報収集。
市防災メール、Yahoo、県防災メールの順位で情報収集。
食糧の蓄え、約半分の方が備えていない。次に 1 日分、2 日分、3 日分の順位

防災無線で情報を得る人が少なく浸透させる必要があると感じた。

4) 公共交通について

30代、40代の方は、車の運転を移動手段とし、ほとんど利用していないが、電車とのアクセスに対する改善を指摘する声が多数あった。
車を運転できない学生、運転免許を返納した高齢者などが主な利用者であり市内を自由に移動できる仕組みを作ることを要望。地域活性化と市内の経済循環へ。市内のタクシーを活用して、リーバス、予約バスと併用した地域交通の利便性を広げて欲しいとの意見もあった。

鹿沼市では、グーグルマップによる通行ルート、時刻表の表示システムを間もなく導入予定。リーバスの複雑な路線、経路、時刻などを他地域からの来訪者にも理解しやすくする。導入したことや利用方法などを周知に工夫し広めることなど、多くの方が活用できるように求めたい。

5-1) 本に親しむについて (項目 17 ~ 19)

5-2) 書店の利用について (項目 20 ~ 22)

5-1) 図書館と、5-2) 書店、本、については共通する意見が多かったため、一括りにした。図書館を利用する人が50%いたことは、比較的高い利用率だが、利用する市民と、利用しない市民に、2極化していることが、うかがえた。
書店を利用する本は購入するという意見では、市内の書店の他に、市外やオンライン(ネットで購入、電子版のダウンロードなど)利用者に分散された。

図書館の活性化は、議会図書館議連でも取り組んできたが、図書館は本を借りる場所という位置づけから発展した情報交換、交流などの空間づくりで足を運びたくなる仕組みを作り確立して活性化をさせていきたい。

6) 防災対策の推進について (項目 23 ~ 25)

本市では風水害の被災経験から、緊急時の情報伝達に対する改善要望は多数あった。河川の護岸強化、自宅の防災対策の支援、情報伝達の整備充実などの要望。防災無線の改善、防災アプリの推進と機能拡充への要望。
台風19号時はケーブルテレビが見られず、防災メールも少なかった。

ケーブルTVからタイムリーな災害情報がない。・防災情報はスマホで得ている。

①市の防災メール ②Yahoo 防災速報アプリなどの意見が多数あった。

スマホが使えなくなったら困る人が多くなってしまうと考えられる。

食料の蓄えでは、約半分の方が備えていない。次に1日分、2日分、3日分の順位となった。食料備蓄に対する推進や啓発が必要と考える。そのためには、家庭でできる保管方法などアイデアの提供も有効では。

7) 自由意見 市政全般についての集約した主な回答、要望

- ・若者が集まる魅力的な市を目指してほしい。企業・大型商業施設の誘致をしてほしい。
- ・子供の遊び場・大きな公園がほしい。子育て支援の充実・安心して出産ができる環境づくり。
- ・夜間に駅前にタクシーが無いのが困る。横断歩道をもっと多く設置してほしい。
- ・商業施設誘致、映画館、ボール遊びやスケボーなど自由に利用できる公園の整備。
- ・水遊びのできる公園、水上アスレチック、花木センターの名称変更とリニューアル。
- ・いちごっこ広場はキレイだが、こぢんまりとしている。広く整備して欲しい。
- ・ひとり親家庭への支援の充実。シングルマザーの為に市営住宅の優先受付。

教育に力を注いでほしいという意見が多く見られた
子供のためを思う意見が多く見られた。

- ・溪流釣りの施設。任意の予防接種の無償化。子供医療費 18 歳までの無償化。広い公園。
- ・信頼できる小児科。着衣水泳教室。子供の遊び場や公園の充実・千手山公園の遊具の更新。
- ・いちご狩りチケット。公設卸売市場前の道路冠水。ユニクロ。信号に矢印表示の設置。
- ・板荷中の統合又はスクールバス。富屋分校に校庭と遊具を。道路新設より舗装を。
- ・市職員の態度を良くする。道路や信号が複雑で危険。市独自で臨時職員を増やす。
- ・御殿山武道館改修。働き世代が仕事を辞めずに市政参画できる仕組みと、
専門家がともに考える仕組み。企業の人材の活用。
- ・不登校の子供の多様な居場所と成長をサポートする全市的なネットワーク構築。
- ・市施設は多少でも利用者負担を求めるべき。税金の減免。
- ・高校生までの医療費無償化。
- ・道路の整備・大雨の日の排水、インフラ整備問題への意見は多かった。
- ・企業・大学の誘致をしてほしい、子供の遊び場・室内で遊べる場所を増やしてほしい。
- ・市道全般にデコボコ道が多く道路の整備をしてほしい。
- ・市内外地の市道は夏期草木が伸びて通学の安全が危ない。
- ・子育て支援・産科の充実が欠如している。市内で出産できる環境。
- ・市民の自然災害意識の向上。身の回りの災害リスクを知って欲しい。

水害対策をもっと早く進めてもらいたいという意見が多い。
災害に関する意見が多く見られた。

7) 自由意見 市議会についての集約した主な回答、要望

- ・もっと若者の声に耳を傾けてほしい。議員の若返り。議会の内容をもっと知らせてほしい。
- ・賛成、反対の意志表示をしっかりとしてほしい。議員定数の削減。

- ・ケーブルテレビで「鹿沼をこうしたい」との議員の思いを語って欲しい。
議員の討論内容が身近に感じられるのでは。
- ・市民のための議会に集中して欲しい。
- ・議会で決まったことを確実に実行して欲しい。
- ・議員さんの派閥（政党）での争いが、子供のケンカのように。

- ・議員の質の向上
- ・市民の声をもっと聞いてほしい。

- ・市長に批判ばかりしている議員は、そんな暇があったら協力して対策にあたって欲しい。
- ・コロナ対策（対策グッズ・対策情報・対策案等）
- ・議員定数削減
- ・議員の定年制度をつくる。
- ・多選の自粛、若返り
- ・意見の発信、若い世代が主軸の若い世代の考えを取り入れてほしい。

- ・市民の意見を組んだ政策立案を
- ・ケーブルテレビの画質をあげる。

- ・アンケート結果を市民にフィードバック
- ・災害の支援金が他市より少なかったり基準が厳しく、市外に引っ越すことを考えている。
- ・議会が何をしているかスマホで検索しやすく
- ・ニーズの把握も大切だが議員側がビジョンをしっかりと持つべき
- ・くだらない議論より未来を見据えた議論で一丸となって議会運営をしてほしい。
- ・個人や党派の利益に固執していないで、一丸となって鹿沼をよくして欲しい。
- ・質問をしない議員にペナルティを科す（調査費削減等）。

- ・議会のTV動画だけでなく、各議員の活動内容が知りたい。

- ・市民税の見直し。
- ・ゴミ袋の無料化。

各委員まとめ（アンケート結果から①）

A基本データから読み取れること (項目1～5)		B個別項目について 1) 暮らしについて (項目6～7)		2) 市政に対する重要度について (項目8～9)		3) 市の魅力について (項目10)	
大島委員長	回答は市P連や鹿保連等、子育て世代の方々の回答が多かった。30代・40代が85%。その内女性の回答者が約62%、鹿沼に定住して21年以上が約70%であった。また、職業は事務職やパートが多かった。	暮らしについては、約61.5%の人が「変わらない」と答え、「良くなった」が約20%。「悪くなった」が、約20%と上下2割ずつありました。	8、重要性の高い施策については ⑥河川の整備、⑦保健・医療体制の充実、⑩子育て支援の充実（医療費助成）、⑪子育て支援の充実（保育園費）、⑫子育て支援の充実（給食費）、⑬子育て支援の充実（出産助成）以上6項目が重要性の高い施策と答えている。 他はほとんどが普通との回答 9、問8のうち特に重点を置くべき5つ 1番 ⑥河川の整備 2番 ①子供の遊び場の整備 3番 ③学校教育の充実 4番 ③人口減少対策への対応（出産助成） 5番 ⑦保健・医療体制の充実 ⑩子育て支援の充実（医療費助成） ⑪子育て支援の充実（保育園費） ⑫子育て支援の充実（給食費） 子育て支援を一括りにすれば、大きく5つが重点と考えられる。	「いちご市」直言・ベリーちゃんについては、少しずつ浸透してきたように思われます。ネーミングライツについては、まだまだ認知度が低い。	自然、緑、清流、秋祭りは全世代の共通認識として魅力に挙げられている。まちの駅、花木センターは魅力に挙げられているが、リニューアルの要望も多い。いちご市など、シティープロモーションへの理解度は広がってきた。		
阿部副委員長	・回答は地区全域に居住する市民の方から平均的に回収できた。 ・子育て世代が対象となる団体などを中心にアンケートの協力依頼をしたため、30代43%、40代41.5%、と全体の84.5%、を占めた。	「良くなった」の回答は少なく、「現状変わらなず」が多かった。「悪くなった」の回答は約2割あり、コロナ禍の2020年7月～9月の回答である影響が伺える。	子育て環境の充実、防災対策、教育行政の拡充、道路の安全、雇用拡充などが子育て世代の安全安心な暮らしの課題と考えられる。	自然が多く都内へのアクセスも良い一面はあるが、これといった魅力（大型店や公園）が少ない。	自然、緑、清流、秋祭りは全世代の共通認識として魅力に挙げられている。まちの駅、花木センターは魅力に挙げられているが、リニューアルの要望も多い。いちご市など、シティープロモーションへの理解度は広がってきた。		
鈴木（紹）委員	回答は30～40代の女性が多い。次に、60代～70代の男性の回答が多かった。	「変わらない」との意見が多かった。	大きい公園の整備。大型ショッピングエリアの誘致・整備。災害対策の見直し。新型コロナウィルス対策。	自然が多く都内へのアクセスも良い一面はあるが、これといった魅力（大型店や公園）が少ない。	自然が多く都内へのアクセスも良い一面はあるが、これといった魅力（大型店や公園）が少ない。		
橋本委員	子育て世代の30～40代のパート、事務職の女性の回答が多かった。	2.3年の間に変わったと感じている人はほとんどいないとわかる。	近年水害があったためか、河川の整備には重要性を感じている人が多いことがわかる。	ネーミングライツ制度はもう少し浸透していくとよいと感じる。	ネーミングライツ制度はもう少し浸透していくとよいと感じる。		
藤田委員	【多い属性】30～40代 事務・販売・パート（⇒給与所得） 市子連等の子育て世代	暮らしは変わらないが家計の状態は気になっている。暮らしは変わらないが家計の状態は気になっている。	公園整備の要望が高い。 小さな公園はたくさんあるが、市民が欲しがっているのは「大きな公園」	ネーミングライツの認知度が低い。	ネーミングライツの認知度が低い。		

各委員まとめ（アンケート結果から①）

A基本データから読み取れること (項目1～5)		B個別項目について		
1) 暮らしについて (項目6～7)		2) 市政に対する重要度について (項目8～9)		
3) 市の魅力について (項目10)				
石川委員	<p>【性別】 ・男女比4:6 (女性62%、男性38%、その他0.3%、)</p> <p>・「その他」の項目を設けたことで、1086人中3人の「その他」と回答された方の気持ちを尊重できたことに意味があったと思う。今回のデータからは人口10万人中270名と読み取ることができ</p> <p>る。</p> <p>【年齢】30～40代が85%を占める中、中学生・大学生から10代7名の回答も得た。</p> <p>【地区】鹿沼、菊沢、北犬飼、東部台の順に多く、この4地区で全体の約半数。</p> <p>【職業】事務とパートを合わせて50%</p> <p>【居住年数】11年以上が80%で、5年以下は5.5%と、居住年数が短い方はかなり少ない</p> <p>【所属団体】幼保小関係者(市P連、市子連、鹿保連、鹿幼連の合計)が78%と、当初の狙い通り子育て世代が約8割で、消防団が13%</p>	<p>6割が「変わらない」、2割が「良くなった」、2割が「悪くなった」。家計の状態に関心が高く、次いで商業施設の充実、子育て環境、道路、通学路の安全、生活の善し悪しを判断する基準は分散している。</p>	<p>「高い」、「やや高い」を足した数字が一番多かったのが①子育て支援の充実(医療費の助成)、次いで②保健・医療体制の充実(病気の予防や地域医療体制の充実)、③河川の整備(河川や水路の維持管理等)</p> <p>・最も高い要望はこども医療費を高校生まで助成すること。</p>	<p>・シティープロモーションは認知度はあがってきている。</p> <p>・ネーミングライツは浸透していない。</p> <p>・いちごアリーナ等子育て世代が頻繁に通う施設の名前が「ネーミングライツ制度」によるものであると認知されていないのは周知不十分。そのため特に子供たちからは不評であり残念。</p>
鈴木(毅)委員	<p>変化なし</p>	<p>内容がすべて千差万別なので、何ともいえないが代表で言うと、一日遊べるジョビングモデルがない。</p>		
大貫委員	<p>「良くなった」では「子育て環境」が目立つ。幼児教育の無償化などが影響か。商業施設の充実、何が影響か?「家計の状態」、「良くなった」より、「悪くなった」が多い。</p>	<p>子育て世代の身近な問題の重要度が高い。「河川の整備」が2番目に多いが、それだけ災害のインパクトが大きかった。</p>	<p>シティープロモーションの認知度は意見が二分、目的をどこに置くか再考が必要か。</p>	
小島委員	<p>回答者は、市P連、消防団、鹿保連、そして市子連の順位であり、年齢は30代、40代、50歳以上の順位で女性の回答者が62%、鹿沼に住んで21年以上が69.9%で職業は事務、技術職、パート等、そして販売等の順位です。</p>	<p>①保健・医療体制の充実 ②子育て支援の充実(医療費助成) ③子育て支援の充実(保育園費) ④子育て支援の充実(給食費) ⑤子育て支援の充実(出産助成) ⑥学校教育の充実(教育による豊かな人間性の育成)</p>	<p>「いちご市」宣言「ベリーちゃん」活用 「いちご市」宣言は普通であり、「ベリーちゃん」の活用も普通と思う。 ネーミングライツは低いです。</p>	
関口委員				
蝦原委員	<p>女性の割合が多く、子育て世代が多かった。</p>	<p>人口減少を懸念している人が多いことがわかる。</p>		<p>ベリーちゃんのほうが少し浸透してきている。</p>

B個別項目について		6) 防災対策の推進について（項目23～25）	
4) 公共交通について	5-1) 本に親しむについて（項目17～19）	5-2) 書店の利用について（項目20～22）	6) 防災対策の推進について（項目23～25）
大島委員長 30代・40代の人は一バス・デマンドをほとんど利用していない、その様な中でも、電車とのアクセスに不備を感じている人が半分以上です。	17、回答者のうち、半分しか図書館を利用していない。 18、図書館で借りる場合は、5冊以上が多い。 19、図書館を利用しないのは、本を購入するかほかの方法で手に入れるから。	20、回答者のうちほとんどの人がツタヤを利用。半数が福田屋の書店を利用。 21、手にするのはほとんどが雑誌、次に専門書とマンガ。 22、「書店を利用する」人の半数が月に一冊は購入している。	23、情報はほとんどがスマホから得ている。次がTVによる情報。 24、防災メールとヤフーで半分ずつ。（地域防災メールの普及をすべき） 25、食糧の蓄え・半数の人が蓄えていない。蓄えていても、1日が2日分である。（3日以上の蓄えの推進をする）
阿部副委員長 回答者の世代が普段の生活で乗用車を移動手段とし、意見が少なかつたが、JR日光線、東武日光線、高速道路、路線バスなど他市、首都圏へのアクセスが良いとする評価があった。	本を読んでいる人、親しんでいる人は一定に存在するが、図書館利用と書店、ネットでの本の購入とオンライン読書に分散される。図書館の利活用は、市民の要望としてあるが、読書という観点とは別の角度で考察が必要なのでは	雑誌、専門書の購入は、書店やオンラインなどで利用している。	河川の護岸強化、自宅の防災対策の支援、情報伝達の整備充実などの要望。
鈴木（紹）委員 小さい子供連にバスに乗る習慣をつけさせるために、スタンプカードなどで特典をしてみてはどうか。本数を増やしてほしい。	図書館を利用してしている人は、有効的に利用しているが、利用していない人は、購入している。	雑誌、専門書の購入は、書店やオンラインなどで利用している。	食料の備えは、1日～2日が多かつた。情報伝達の改善が必要。（台風19号時はケーブルテレビが見られず、防災メールも少なかつた）
橋本委員 鹿沼は車社会ということがよくわかる。	図書館を利用しなくても、本には触れている人は多い。	少なくとも1冊は読んでいる人が多い。	スマホが使えなくなったら困る人が多くなってしまおうと考えられる。
藤田委員 アンケート対象者に公共交通を利用しては少ない。	利用している人となしな人の差が大きい（利用者は5冊以上借りる）情報はネットで手に入る？	多様多様	備蓄食料3日分は必要だが1日しか蓄えていない⇒啓蒙の必要性あり。
石川委員 ・リーバス、デマンドバスはほとんどの人が利用していない。 ・リーバスの利用目的のほとんどが「その他」であつたが、その内訳を把握することで分析できることがあるように思う。 ・電車の乗り換えはほぼスマホのアプリ等で確認している。 ・JR、東武ともに接続が悪いという人が良いという人の4倍程度。毎年調整を詰めるが、更なる改善が求められる。	・半数が図書館を利用しない。 ・図書館を利用する人は5冊以上借りる人が多い。 ・図書館を利用しない理由は、情報を得る手段が本以外（ネット等？）である、または購入する人が多い。	・書店利用は①ツタヤ②福田屋③ワンダーグー ・購入するのは①雑誌②専門書③漫画で、月に1冊程度の人か半数。	・防災情報はスマホで得ている。 ①市の防災メール②Yahooの防災速報アプリ ・半数の人が家庭での備蓄をしていない。している人も1日分が多い。
鈴木（毅）委員 あまりリーバスは活用されていないと思うのは僕だけですか？	読みたい本は専門蔵が強い。図書館まで番号が多い。ネットで注文するのでも必要なし。	ツタヤさんがあるくらいで、大型書店は宇都宮市までいかないと思ひます。	栗野地区、永野地区で防災カメラ（河川の氾濫等）監視できるものがあったら安心すると思ひます。
大貫委員 そもそも利用が少なく、関心度は低い。アクセスが悪いが多数。	「図書館を利用しない」が一番多い。改めて図書館の役割は何が考えさせられる。	全体として本離れかな。	若い世代にはスマートフォンを通じた情報発信が有効。
小島委員 ・リーバスの利用は高校生と高齢者が全体であり、中でも電車の接続が悪く、特に高校生は朝夕の通学時の増便を要望します。 ・デマンドバスは利用の仕方を理解していない。リーバスとデマンドバスの違いを理解していない人が多い。	17、回答者の半分以上が利用してない、働き世代の回答率だからと思う。 18、5冊以上が多いが、本を借りる本の内容は、どのように本を借りるのかな？	20、ツタヤ、福田屋、ワンダーグーの順位です。 21、雑誌、専門書、マンガの半分弱であります。 22、月に一冊購入が半分弱であります。	23、スマホ、テレビ、ケーブルテレビ、ラジオの順位で情報収集。 24、市防災メール、Yahoo、県防災メールの順位で情報収集。 25、食糧の蓄え、約半分の方が蓄えていない。次に1日分、2日分、3日分の順位であり、3日分備えも増やしたい。
関口委員			
藤原委員 デマンドバスはほとんど使われていない。1077人が利用なし。	本は読むが図書館は使われない人が多い。	ほとんどが大手で買っていることがわかる。	防災無線で情報を得る人が少なく浸透させる必要があると感じた。

各委員まとめ (自由意見の分析)

	3) 市の魅力について	4) 公共交通について	7) 自由意見	
大島委員長	<p>項目 3 鹿沼市の魅力だと思ふものを、記入して下さい。</p> <p>99件中 秋祭り・屋台と記入した人…27人 (27.3%) 豊かな自然…17人 (17.2%) いちご…8人 (8.0%) そば…8人 (8.0%) その他*首都圏に直通する鉄道・高速のICもあり交通の便も良い</p> <p>・自然の豊かさについて (清流、緑、田園風景)が魅力との回答が多かった。 ・鹿沼市への交通アクセスが良い。(JR日光線、東武日光線、高速道路、路線バスなど首都圏からのアクセスが良い。) ・農産物、いちご、トマト、ニラ、直売所が整備されている所。 ・そばが美味しい など。 *回答者の多くは本市の魅力を考えているが、その魅力を伝えきれないとの意見もあった。</p>	<p>項目16-4具体的な意見を下の段に記入をお願いします。</p> <p>・本数を増やして、学生や高齢者の生活を充実してほしい。 ・路線、時刻など案内がわかりにくい。 ・大きなバスよりも、予約タクシーの整備を進めてほしい。など *地域公共交通に対する意見は、回答者の世代が乗用車を移動手段とし、本市のリーバス、予約バスをほぼ利用しているため回答が少なく、曖昧な意見も多く感じた。そうした意見から、リーバスに代わる、新たな地域公共交通を提言していくことを考えたい。</p>	<p>項目16-5どのようにしたらリーバス、デマンドバスを利用しやすくなりますか。</p> <p>・ルートがわかりにくい、ルートを増やしてほしい、本数を増やしてほしい。 ・リーバスの告知と利用のしやすさをアピールするべきだ。</p>	<p>項目26-1市政全般、また、市議会について意見をお書きください。(市政全般)</p> <p>(2) 市議会について もっと若者の声に耳を傾けてほしい。議員の若返り。議会の内容をもっと知らせてほしい。賛成・反対の意志表示をしっかりとりたい。議員定数の削減。</p>
阿部副委員長	<p>自然が多い。民俗文化がある。 いちご・にら・そば、こんにゃく等の名産物がある</p> <p>自然が豊かであるところ。</p> <p>自然が近いこと。 民俗文化があること。 農作物が豊富であること。</p> <p>・豊かな自然、清流、いちご、そば、さつき、さくら並木、木工 ・秋祭り、花火大会 ・「いちご」が魅力とする人が7人 ・いちご市を推していることに強く批判的な人が3人 ・魅力が全くないと書いた人が3人</p>	<p>・本数を増やして、学生や高齢者の生活を充実してほしい。 ・路線、時刻など案内がわかりにくい。 ・大きなバスよりも、予約タクシーの整備を進めてほしい。など *地域公共交通に対する意見は、回答者の世代が乗用車を移動手段とし、本市のリーバス、予約バスをほぼ利用しているため回答が少なく、曖昧な意見も多く感じた。そうした意見から、リーバスに代わる、新たな地域公共交通を提言していくことを考えたい。</p>	<p>(議会に対して) ・ケーブルテレビで「鹿沼をこうしたい」との議員の思いを語って欲しい。 ・議員の討論内容が身近に感じられるのでは。 ・市民のための議会に集中して欲しい。 ・議会で決まったことを確実に実行して欲しい。 ・議員さんの派閥(政党)での争いが、子供のケンカカのような。</p>	<p>(議会について) ・議員の質の向上 ・市民の声をもっと聞きたい。</p>
鈴木(紹)委員	<p>自然が多い。民俗文化がある。 いちご・にら・そば、こんにゃく等の名産物がある</p> <p>自然が豊かであるところ。</p> <p>自然が近いこと。 民俗文化があること。 農作物が豊富であること。</p>	<p>(市政一般について) ・大きい公園の整備。大型ショッピングエリアの誘致・整備。災害対策の見直し。 ・新型コロナウイルス対策。</p>	<p>(議会について) ・議員の質の向上 ・市民の声をもっと聞きたい。</p>	<p>(議会について) ・議員の質の向上 ・市民の声をもっと聞きたい。</p>
橋本委員	<p>自然が豊かであるところ。</p> <p>自然が近いこと。 民俗文化があること。 農作物が豊富であること。</p>	<p>・教育に力を注いでほしいという意見が多く見られた ・子供のためを思う意見が多く見られた。</p>	<p>・大きくて広い公園を欲しいという意見が多く見られた ・公園には、政局的なことよりも質の高い議論が望まれているのでは。</p>	<p>(市議会) ・市長に批判ばかりしている議員は、そんな暇があったら協力して対策にあたって欲しい。 ・コロナ対策(対策グッズ、対策情報・対策案等) ・議員定数削減 ・市民の意見を組んだ政策立案を ・ケーブルテレビの面額をあげる。 ・議員定年を65歳にする。 ・議員の質問が… ・アンケート結果を市民にフィードバック ・災害の支援金も他市より少なかったり基準が厳しく、市外に引越すことを考えている。 ・議会が何をしているかスマホで検索しやすく ・二丁の把握も大切な議員側がビジョンをしっかりと持つべき ・くだらない議論より未来を見据えた議論で一丸となって議会運営をしてほしい。 ・個人や党派の利益に固執していないで、一丸となって鹿沼をよくして欲しい。 ・質問をしない議員にペナルティを科す(調査費削減等)</p>
藤田委員	<p>自然が豊かであるところ。 自然が近いこと。 民俗文化があること。 農作物が豊富であること。</p>	<p>子育て世代はリーバス等をほとんど必要としていない。 子育て世代はリーバス等をほとんど必要としていない。</p>	<p>・大きくて広い公園を欲しいという意見が多く見られた ・公園には、政局的なことよりも質の高い議論が望まれているのでは。</p>	<p>(市議会) ・市長に批判ばかりしている議員は、そんな暇があったら協力して対策にあたって欲しい。 ・コロナ対策(対策グッズ、対策情報・対策案等) ・議員定数削減 ・市民の意見を組んだ政策立案を ・ケーブルテレビの面額をあげる。 ・議員定年を65歳にする。 ・議員の質問が… ・アンケート結果を市民にフィードバック ・災害の支援金も他市より少なかったり基準が厳しく、市外に引越すことを考えている。 ・議会が何をしているかスマホで検索しやすく ・二丁の把握も大切な議員側がビジョンをしっかりと持つべき ・くだらない議論より未来を見据えた議論で一丸となって議会運営をしてほしい。 ・個人や党派の利益に固執していないで、一丸となって鹿沼をよくして欲しい。 ・質問をしない議員にペナルティを科す(調査費削減等)</p>
石川委員	<p>自然が豊かであるところ。 自然が近いこと。 民俗文化があること。 農作物が豊富であること。</p>	<p>・本数が少ない、時間が合わない、電車との接続が悪い、リーバスの発着所を西口にまとめてほしい、ペビーカーでも乗りやすくしてほしい、口裏野だけでなく、直通の中入栗野や鹿沼間の本数が少なくて不便、北半田地区にバスが通っていないので高校生は不便 ・子供が赤ちゃんだんだつた頃、利用したかったが利用方法がわからなかった。今も電車との時間が合わず、タクシーを使っている。 ・雨の日は台も乗れず鹿沼まで徒歩で登校し、遅刻した。</p>	<p>・大きくて広い公園を欲しいという意見が多く見られた ・公園には、政局的なことよりも質の高い議論が望まれているのでは。</p>	<p>(市議会) ・市長に批判ばかりしている議員は、そんな暇があったら協力して対策にあたって欲しい。 ・コロナ対策(対策グッズ、対策情報・対策案等) ・議員定数削減 ・市民の意見を組んだ政策立案を ・ケーブルテレビの面額をあげる。 ・議員定年を65歳にする。 ・議員の質問が… ・アンケート結果を市民にフィードバック ・災害の支援金も他市より少なかったり基準が厳しく、市外に引越すことを考えている。 ・議会が何をしているかスマホで検索しやすく ・二丁の把握も大切な議員側がビジョンをしっかりと持つべき ・くだらない議論より未来を見据えた議論で一丸となって議会運営をしてほしい。 ・個人や党派の利益に固執していないで、一丸となって鹿沼をよくして欲しい。 ・質問をしない議員にペナルティを科す(調査費削減等)</p>

各委員まとめ（自由意見の分析）

	3) 市の魅力について	4) 公共交通について	項目16-5などのようにしたらリーバス、デマンドバスを利用しやすくなりますか。	7) 自由意見	項目26-1市政全般、また、市議会について意見をお書きください。(市政全般)	項目26-2市政全般、また、市議会について意見をお書きください。(市議会)
鈴木（教）委員	<p>項目 3 鹿沼市の魅力だと思うものを、記入して下さい。</p> <p>99件中 自然という言葉を用いられた人…21人 祭りという単語…18人 いちご…12人 蕎麦…6人 その他全体的に、丁度良い交通機関や高速鹿沼インターが取り上げられていた。3年前から実施しているが聞くだけで聞いてそれが全く活かされていないのであれば、今後実施する必要は全くないと思う。何か1つでも実施すればまだ話は理解できるが、今後個人的には継続する必要はないと思います。</p>	<p>項目16-4具体的な意見を下の段に記入をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイカー所持がほとんどなので、公共交通に乗らない方が多かった。バス路線図が普及していない等、時刻表も含め掲示する場所を増やす。 ・リーバスの最終が早すぎる等、学生などの事も考えてもらいたい。 ・公共交通については、深津地域の駅を廃止した時点で将来についてのインフラはやる気はないものとして考えているので、乗る人が減少傾向にある。向か1つでも実施すればまだ話は理解できるが、今後個人的には継続する必要はないと思います。 	<p>意見が多かったのは、高校生までの医療費無償化。 ・道路の整備・大雨の日の排水、インフラ問題が多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議員の若返り、定数削減、議員に対する要望が多かった。どれか一つでも実行できればいいと思います。議会改革で提言していきたいと思えます。これも今後2年間で何も実行できなければ市民アンケートはやめた方がいいと思います。時間の無駄です。 	<p>項目26-1市政全般、また、市議会について意見をお書きください。(市政全般)</p>	<p>項目26-2市政全般、また、市議会について意見をお書きください。(市議会)</p>
大貫委員	<p>・自然環境の豊かさを魅力と捉えている意見が多かった。 ・高速、電車→交通の便の良さも魅力の一つか。</p>	<p>そもそも利用している人がいない。今の運行本数では、交通手段として選択肢に入られていないのでは。本数を増やすべきとの意見もある。運行ルート、乗り継ぎがわかりにくい点もネックか？</p>	<p>議会に対する批判も多かった。</p>			
小島委員	<p>67件中 秋祭り、屋台と記入した人…19人 豊かな自然…19人 いちご…13人 組子…8人 そば…5人 二子…3人 さつき…3人 都心へのアクセス…3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーバス利用者が少なく、リーバスとデマンドバスの違いがわからない方が多く、朝夕の通勤・通学時本数を増やして欲しい。 ・リーバス停が近くにないため利用しづらく各リーバスごとの接続、電車との接続も悪い。 	<p>(市政全般について) 企業・大学の誘致をしてほしい、子供の遊び場・室内で遊べる場所を増やしてほしい、市道全般にデコボコ道が多く道路の整備をしてほしい、市内外地の市道は夏草草木が伸びて、通学の安全が危ない、子育て支援・産科の充実が欠如している、市内で出産できる環境、市民の自然災害意識の向上、身の周りの災害リスクを知って欲しい。</p>	<p>(市議会について) ・議員定数の削減 ・多選の自粛、若返り ・議会のTV動画だけでなく、各議員の活動内容 ・意見の発信、若い世代が主軸の若い世代の考えを取り入れてほしい。 ・市民税の見直し ・ゴミ袋の無料化</p>		
関口委員						
柳原委員	<p>・秋祭り</p>	<p>・根本的にバスの本数が少ないという意見が多い ・使っている人に高齢者が多いため、使いやすくした方がいいという意見が多かった。</p>	<p>・水害対策をもっと早く進めてもらいたいという意見が多い。 ・災害に関する意見が多く見られた。</p>			

4. 考察

～子育て世代の声から感じた希望ある未来への鹿沼市政と課題～

2030年の鹿沼市は、総人口予測を約1万人が減少する84,703人とし、世代で分けると0-14歳の人口が9,289人、15-64歳の人口46,594人、65歳以上が28,820人と推測されています。老年人口が全体の約30%以上を占めていく一方で、子どもの人口が減少していくことも予想されています。そうした中で、地域活力の衰退が課題としてあげられ、人口減少に伴う人材不足やコミュニティの力が衰えていくことなどが危惧されているところです。

鹿沼市の人口状況は、平成22年(2010年)の国勢調査では世帯数34,999、総人口102,348人となっていますが、10年が経過した、2020年の国勢調査の公表値では、令和3年7月1日現在、世帯数37,047、総人口94,253人としており、人口減少下にあっても世帯数が増加傾向であり、鹿沼でも、他の自治体と同様に、核家族化の問題も課題になっています。

鹿沼市においても、社会経済の変化や少子化に伴い、妊娠、出産から子どもの健全な育ちにかかわるニーズが変化していることを、今回の調査から感じ取れ、適切な対応が求められていると分かりました。

こうしたことから、今後、子育て世帯に対する環境を充実することは、鹿沼市の将来を担う子どもたちが健全に育っていくためにも、重要であり、アンケートからも学校や通学路の整備、公園など、遊び場を広げる環境整備と教育環境の充実などに多くの意見があり、公共空間を始めとする生活環境においての子育てに対する、公的支援の強化を重点政策として捉えていく必要があります。

また、防災や防犯、道路など生活環境の整備についても具体的施策を求める声が多数ありました。さらには、今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活様式の変化は、今後のまちづくりの形や、市民一人一人の人生設計や価値観にも影響をもたらしているものと考えられ、市の危機管理体制の強化に対する市民の期待が込められています。

アンケートに寄せられた市民の声を重く受け止め、それらを反映した政策を、強力におし進めること。本市で暮らす、子育て世代、働き盛りの世代の皆さんや、鹿沼市の将来を担う子どもたちが、未来に希望を描き、鹿沼市で暮らしていきたい、また、鹿沼市で暮らして良かったと思えるようにすること。寄せられた市民の声を反映した政策を、積極的に取り組み、これからの時代に対応していける、まちづくりを目指していくために、積極的な取り組みを進めていく必要があります。今回のアンケートの声を、鹿沼市民が市政に要望するマーケティングの結果として捉えて、提言をいたします。

提言書 - 01

～子育て世代にとって希望にあふれる夢を描ける鹿沼市づくりのために～

提言 - 1

市民マーケティング調査で得ることのできた市民の声を、中間報告ではフローチャートで集約。さらに課題に分けて下記の通り整理した項目に対して、次期鹿沼市総合計画での施策の具体化を求める。

重要度

1. 河川整備
2. 子どもの遊び場
3. 学校教育
4. 出産補助(少子化対策)
5. 子育て支援(医療費・保育費・給食費)

市の魅力

1. 豊かな自然
2. 豊かな食(そば、いちご、トマト、にら等)
3. 秋祭り(屋台)の3項目を活かしたPRや地域活性化の施策。

公共交通

1. 電車とのアクセスを向上させた地域公共交通の確立。
2. スマホ地図アプリによる通行ルート・時刻表検索の検証と活用推進。

本に親しむ

図書館は、本を借りる場所から、情報の発信や交換、市民の交流する場などの空間づくりでさらなる進化に取り組む。

防災対策

1. 河川整備の強化
2. 住民と共有する迅速な防災情報
3. 備蓄品の整備の3項目について多くの意見があり、具体策に取り組む。

提言 - 2

少子高齢化・人口減少時代の中、子育て・子育てに関する要望は、回答者の多くが取り上げている。そうした観点から次の施策提言を重点として、取り組んでいくこと。

① 子どもが、のびのび遊べる広い公園の整備

鹿沼市は都市公園法に基づく整備で鹿沼市に必要な面積の公園整備はしている。しかし、市民が望んでいる公園は、街角の小さな公園ではなく、自由にのびのび遊べる広い公園であり、例えば10,000平方メートルを超える規模の広場と、家族で自由に行くことができる十分な駐車場を保有するものであり、文化ゾーンや商業施設と隣接することを理想とし、そうした「まちの顔」を整備することで、まちの活性化、暮らしていきたい「まちの姿のひとつ」になる。

② 安心して妊娠・出産・育児のサポートなど子どもが健やかに育まれる環境整備

妊娠期から子育て期にわたるまでの、様々なニーズに対応する支援への要望が、子育て世代の声として多くあった。人口減少対策への対応への要となる、本市独自の出産助成、保健・医療体制の充実、保育園費の支援、給食費の支援と、母子に対する心身のケアや育児のサポート等のきめ細かい支援相談体制の強化など、具体的施策を進めること。

提言書 - 02

提言 - 3 鹿沼市の潜在能力の活用

鹿沼市の豊かな自然を魅力的と考えている市民が多い。また、豊かな食として、そば、いちご、トマト、にら等もあり、今後、南摩ダムにともなう温泉施設やアウトドア施設の整備が行われるが、他の施設も含め、対外的なアピールに力を入れ、交流人口増の推進と、地域経済の活性化につとめること。

提言 - 4 文化のかおる豊かなまちづくりの実現

① 図書館の改革

図書館は、本を借りるだけの場所から、市民の交流や様々な情報の発信や交換の場として、子育て世代から、青少年から高齢者まで世代をこえて、集える空間となるべきです。「提言 2」にもあるとおり文化活動交流館や川上澄生美術館との有機的連携をとりつつ、ゾーンとして市民に利用されやすいものとして行くこと。

② 文化活動交流館、図書館本館を中心とした市民の集える場所の再構築

提言 2-①で述べた公園整備を踏まえ文化活動交流館周辺の再構築は有効と考えられる。文化活動交流館と鹿沼市情報センターの双方の駐車場の活用により、駐車場の許容範囲も広がる。中央図書館、黒川河川の整備後の河川敷の活用なども含めた見直しで、鹿沼市民憲章に掲げた、文化のかおる豊かなまちづくりを実現させる。

提言 - 5 防災対策の強化

① 河川整備の推進

河川整備は県が主体になる工事が多い。連携と迅速な働きかけをすることと、洪水被害を軽減する田んぼダムなどの整備、市が管理する準用河川や雨水対策の水路の整備を強化を進め、安全・安心に暮らせる河川環境の整備に努めること。

② 正確で迅速な防災情報のあり方（命を守る行動を促すために）

本市の防災アプリの活用推進を市民に広げていき、市民への速やかな情報発信を推進すること。発災時の警戒レベル4は、避難勧告と避難指示（緊急）から「避難指示」に一本化された。情報発信が遅れることが無いようにするため、防災行動計画のタイムラインを先回りする発信に務めること。住民や被災現場からの情報提供は、防災本部及び関係機関で共有し、速やかな対応とフィードバックで双方向の情報発信とすること。

7. 終わりに

令和 4 年度から始まる第 8 次鹿沼市総合計画の策定に当たり、前提となる本市の現状の姿や、本市を取り巻く社会潮流などを明らかにするための各種調査を市は実施。2020 (令和 2) 年 11 月、その基礎調査報告書において定量分析が公表されました。人口推移と将来推計 国勢調査結果による人口推移の結果では、2025 (令和 7) 年には総人口が 90,000 人を下回り、老年人口比率は 32.5% となることが予測されています。

2040 年の総人口はさらに減少が予想され 74,222 人、老年人口は 28,781 人で全体の 38.7%。一方、年少人口は 7,643 人、全体の約 10% と想定されました。こうした人口減少と少子高齢化の問題を踏まえた上で、少子化に起因する諸課題を検証し、子育て・子育ての環境の向上に係る施策は優先的に取り組まなくてはならず、質の高い子育て・子育て環境に資するよう、積極的に意見、要望、提言を行う必要があると考え、鹿沼市議会市民マーケティング調査特別委員会では、鹿沼市の子育て世代を中心に、アンケートを実施して市民の声を聞かせていただきました。

アンケートの集約から提言に至るところでは、昨今、複雑多様化した社会情勢を背景として、子どもの貧困なども、深刻な社会問題となっていることから、子どもの権利擁護に関する対策も急務であり、あくまで子どもの視点に立ち、子どもの最善の利益を追求する観点から、子育て世代が安心して家庭を営み、子どもを産み育てることに喜びを持てるよう、また、将来を担う全ての子どもが、健やかに生まれ育つ鹿沼市の施策が確立していくことを望むものである。

また、気候変動の影響などにより、度重なる風水害では、市民の安全安心な暮らしが脅かされています。気候非常事態宣言を表明した鹿沼市として、自然環境に対する啓蒙など、市民の意識づくりも大切なことですが、防災に対する市民の声に応える、より具体的な施策を推進することを望むものである。

少子高齢化の社会への対応では、高齢者の生活支援策を強化していくことも重要であり、子育て世代の市民などが、介護による離職を予防するなど、市民全体の社会生活の充実にもつながるものであることから、地域包括ケアシステムを軸にした、市民の暮らしに寄り添った施策を進めなくてはなりません。

今回の市民マーケティング調査にあたり、あらためて、行政、議会が切磋琢磨しながら、それぞれの立場で積極的に、諸課題に取り組む責務があると認識するものです。

最後になりましたが、ご協力をいただきました、市民の皆様には、ご多忙の中、アンケートを広めていただき、貴重な意見をいただきましたことに感謝を申し上げます。

鹿沼市議会 市民マーケティング調査特別委員会

委員長 大島久幸 副委員長 阿部 秀実

委員 鈴木 紹平、橋本 修、藤田 義昭、石川 さやか、鈴木 毅、
大貫毅、小島 実、関口 正一、鰐原一男 (※ 議席順)